

横浜らしさを育む
歴史を生かしたまちづくりその4

(都市デザイン活動50年)
ー 前半25年の取組み ー

4, 都市デザインとしての「歴史を生かしたまちづくり」

西 脇 敏 夫
都市デザイナー・元横浜市都市デザイン室長

〈 横浜都市デザイン50周年記念事業:都市デザインを「知る」講演会 〉

一口に「デザイン」と言うけど 「デザイン」としての「都市デザイン」を考える

二次元のデザイン(平面)

「平面」 グラフィックデザインなど

三次元のデザイン(立体)

「物」 ファッションデザイン、インダストリアルデザインなど

(都市デザインが主に対象とするデザインは、土地に定着して生活環境を形成するもの)

「施設」 建築デザイン、シビックデザイン(土木施設)、
ランドスケープデザイン(公園緑地)、
パブリックデザイン(ストリートファニチャー)など

「集合」 プロジェクトデザイン(大規模事業、再開発事業)、都市設計

四次元のデザイン(+時間軸)

「都市」 都市デザイン(アーバンデザイン)

都市デザインの「デザイン」としての特徴

- ① 様々の施設が集合する「全体のデザイン」
 - ② 街全体の価値と個別施設の価値の「調整のデザイン」
 - ③ 不特定多数の市民が生活する場の「公共空間のデザイン」
 - ④ 社会経済状況などで変化する「都市空間のデザイン」
 - ⑤ 地域の文脈を育くむ継続し続ける「四次元のデザイン」
- * 完成形がない
 - * 主体になる「地方自治体」の取組み姿勢と意欲が鍵になる！

「四次元のデザイン」プロセスにおいて 「変わらない」固有の価値、「変わる」新しい価値

「変わらない」固有の価値が、街の「個性」の基盤になる

「変えない」価値を明確にして継承する「ルール」と適切な運用が大切

* 「歴史を生かしたまちづくり要綱」「歴史的景観保全委員」「歴史資産調査会」

この仕組みで、歴史的建造物の専門的価値、市民的価値を明確にする

* 「山手地区景観風致保全要綱」と関係部局の連携した運用

景観風致という質的価値を、高さ、店舗面積などで明確にする

「変わる」新しい価値が、街の「魅力」の基盤になる

「変える」デザイン力と、全体を整える「ルール」と適切な運用が大切

* 「街づくり協定」「建築協定」「地区計画」「都市景観協議地区」など

「個性」と「魅力」を育む「都市デザイン」活動 総合的な取組みの価値観

「地域の資源」を生かして、まちの「個性」を守り育てる活動

- 1、地形や緑地、海や川などの自然の特徴を大切にする
 - 2、歴史的な資産を大切にする
 - 3、文化や生活を大切にする
- 個性が「魅力」になる

「市民生活の場」として、公共空間の「魅力」を創り育てる活動

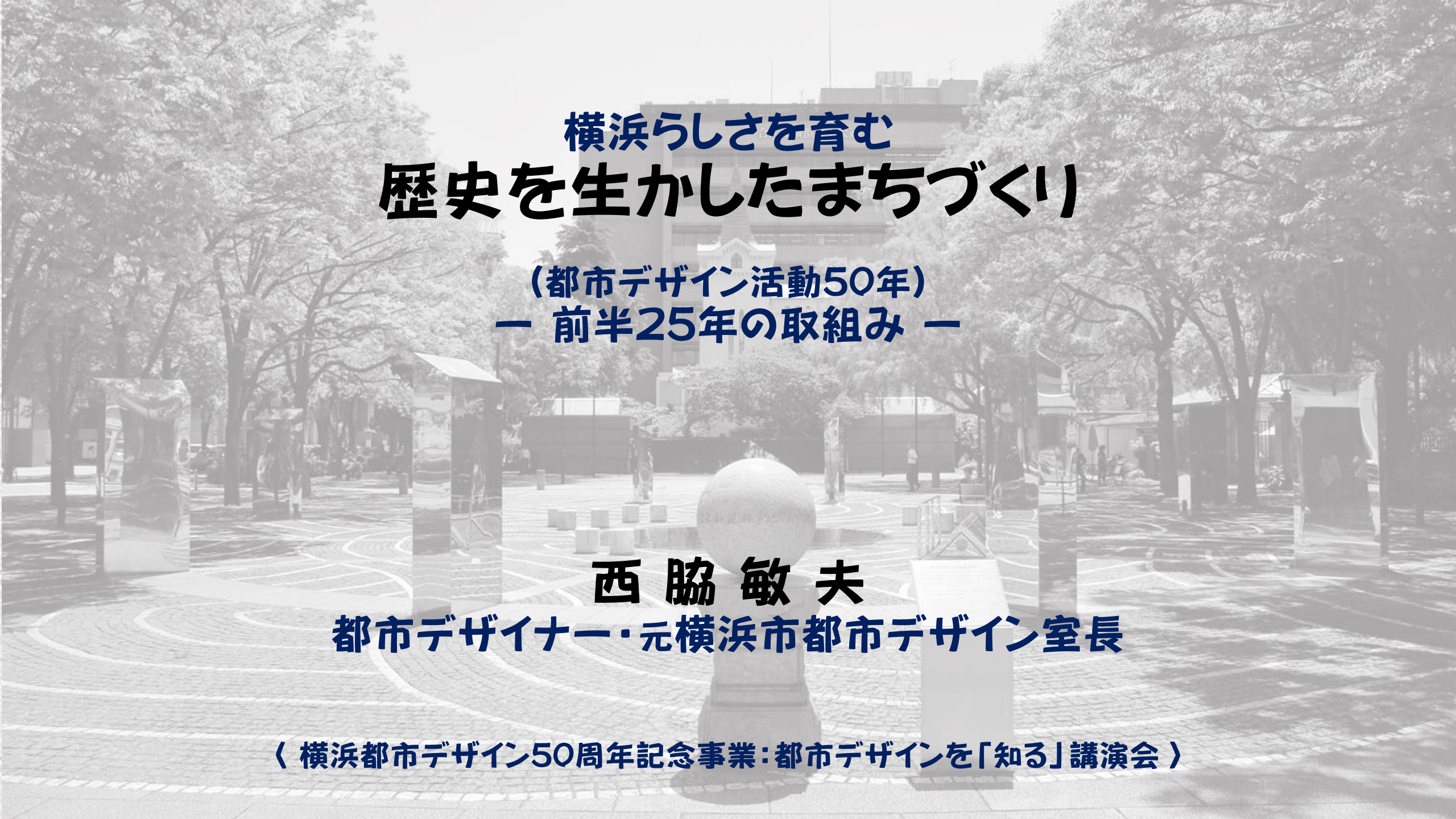
- 1、街の公共空間が、人間的な市民生活を送れる場にする
 - 2、歩行者が、安全で快適な生活が出来る路や広場を創る
 - 3、公共空間を形成する建物や緑などの街並を整える
- 魅力が「個性」になる

横濱らしさを育む 「都市デザイン」としての「歴史を生かしたまちづくり」

社会、経済、価値観などが変わり、人が変わり、まちは変わる
まちは「生き物」のように 姿を変え、生き続ける

そして都市や街それぞれに
「変わらぬ価値」と「新たに生みだされる価値」とが 共に息づいて
まちの個性と魅力が かたちづくられる

個性と魅力あるまちづくりには、時代を超えて その目標に向かう
立場、意志、デザイン力、そして 協働する多くの人達がいる



横浜らしさを育む 歴史を生かしたまちづくり

(都市デザイン活動50年)
ー 前半25年の取組み ー

西 脇 敏 夫
都市デザイナー・元横浜市都市デザイン室長

〈 横浜都市デザイン50周年記念事業：都市デザインを「知る」講演会 〉